

2017年2月6日

各位

聖学院大学総合研究所
グローバル化と日本文化研究代表 清水正之

2016第1回グローバル化と日本文化研究のご案内

2016年度の「グローバル化の文脈での日本文化研究」の研究会を下記の日程で開催します。

今回の発題者は、日本文化学科准教授 木下綾子先生です。先生は中古文学がご専門ですが、そのご研究をふまえ、当時の支配的文化である中国の文学に向き合う日本が、どのように中国文学を受容し、かつ文学の営みをおこなったかという視点から、ご発題くださいます。先生は、2016年度から関連するテーマでの科学研究費による研究を続けておられ、全体の主題にそった先端的なご研究をふまえてのご発題になるだろうと期待しています。

ご多忙の時期ではありますが、ふるってご参加いただきたく、お知らせいたします。

【記】

日時：2017年3月1日(水)18時00分～19時30分 <17時30分開場>
会場：聖学院大学4号館4階第一会議室(4402教室)
発題者：木下綾子(聖学院大学人文学部日本文化学科准教授)
発題：「日本における「貞観の治」受容と文章経国思想」

講師 木下綾子先生の紹介:聖学院大学人文学部日本文化学科准教授。明治大学大学院博士後期課程修了。博士(文学)。明治大学文学部兼任講師、同研究推進員(法人PD)などを経て2015年4月より現職。[論文]「光源氏と冷泉帝―「天に二日無し」という典拠と準拠」(『中古文学』95、2015年6月)、共著「源氏物語についての近世儒教言説資料集―付録:著者・資料名総覧(年代順)/著者名索引/資料名索引」(『古代学研究所紀要』19、2013年7月)、「菅原道真と醍醐天皇―『菅家後集』四八二「九月十日」の帝王像」(『古代学研究所紀要』16、2012年3月)、「嵯峨上皇と淳和上皇―『日本後紀』序文の「一天両日」と堯・舜の喩を起点として」(『文学研究論集』26、2007年2月)ほか [著書] 共著『人物で読む源氏物語』18句宮・八宮(勉誠出版、2006年11月)、共著『源氏物語の観賞と基礎知識』vol.35若菜下(後半)(国文学「解釈と観賞」別冊、至文堂、2004年6月)、同vol.24 澤標(至文堂、2000年2月)

準備の都合がありますので、ご出席の場合は

2月22日(水)までに、

下記申込書をご提出いただくか、Eメール、FAX、Web(オンライン)申込にてお申し込み出来ます。

※お電話での申込はできません。

お問合せのみとなります。ご了承ください。

<ご連絡・お問合せ先>

聖学院大学総合研究所
[学術支援部 研究支援課]
〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号
TEL 048-725-5524 / 048-780-1704
FAX 048-781-0421
E-mail: research@seigakuin-univ.ac.jp
HP: http://www.seigresearch.jp/



キリトリ

申込書 聖学院大学総合研究所 宛 (FAX 048-781-0421)

2016年度第1回グローバル化と日本文化研究会(3月1日)に出席します。

所属[] お名前[]
電話番号[] E-mail []
住所[〒]

※不測の事態(災害・交通機関事故)により研究会が中止となる場合がありますので、緊急連絡のための電話番号・メールアドレスのご記入をお願いします。